

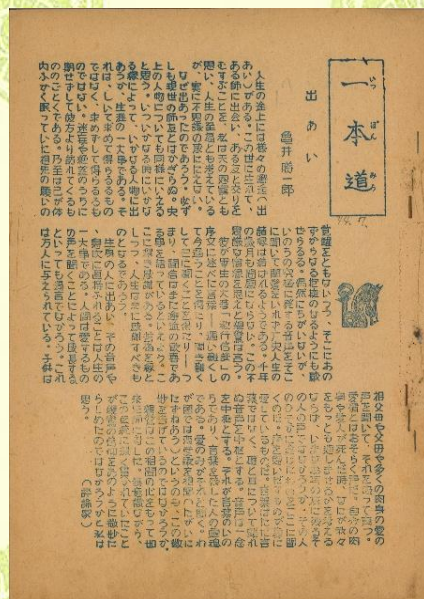
Web版

一本道

第1号 通巻71号

前住職・松本梶丸は『一本道』という寺報を発行しておりました。わら半紙にガリ版（謄写版）印刷した冊子で、昭和44年7月に第1号が出版されています。

今の若い人たちにはガリ版印刷といってもわからないでしょう。ワープロもプリンターも無い時代の、個人での印刷方法です。薄い紙にロウを引いた原紙の上に原稿を敷いて鉄筆で書くと、筆圧でロウが削れて孔ができます。原紙を謄写版枠に張り、ローラーでインクを押し出して紙に転写します。当時は学校の配布物などもガリ版印刷であったように思います。かなり手間も時間もかかりますが、独特の温かみのある線に味があり、今でも当時を思い出すとインクの匂いを鼻孔に感じるような気がします。ただ、子どもの頃の私は、A3用紙を二つ折りにして、計8ページの冊子を作ることを手伝わされることが嫌で仕方ありませんでした。



『一本道』第1号 昭和44年7月

当初6ページの寺報を、ほぼ毎月発行するというのはなかなかの熱量であり、若さだけでなく、父には何か己を突き動かすような強い衝動があったのではないかと。今、改めて当時の『一本道』を読みますと、30歳の父の苦悩や憔悴や渴望といったものが紙面からにじみ出ているように感じます。

父はあまり身体が丈夫な方ではありませんでしたので、その後『一本道』の発行も不定期になり、私も十分な手伝いもできず、平成13年7月の第70号が最終号となりました。

た。故幡谷明先生の講演録が「中」で終わってしまっていることに、寂しく申し訳ない 생각이がします。



『一本道』最終第70号 平成13年7月

本来ならば、住職を継いだ私が『一本道』も継承すべきでしたが、周囲の期待もあり何度か挑戦するものの挫折を繰り返すという体たらくでありました。力量不足であった上に、何よりも課題に向き合う真摯な姿勢が欠けていました。そこには到底、父の業績は越えられないという諦観のようなものがあったように思います。

今回『本誓寺公式ホームページ』のリニューアルに際して「これが最後の機会かもしれない」という思いがありました。考えてみれば現代は50年前とは比較にならない恵まれた環境が用意されているのです。デジタルな技術はまったく持たぬ我が身ではありますが、Web版『一本道』を通して、人に思いを、願いを伝えていきたい。そしてそのことが私自身の成長にもつながっていくのではないかと思います。

過去の『一本道』のスタイルを踏襲し、本誓寺でお話をいただいた先生方の講演録を柱として、住職のコラムなどを挿みつつ、読み物として楽しいものにしていけたらと考えております。これからも、お付き合いいただければ嬉しく思います。

2025年 10月 本誓寺住職 松本 純

